

言いかえてみよう！慣用句プリント①

手・口・目・耳の ことば ふつうの 言い方 ↔ 慣用句

なまえ _____

ひづけ _____

上の れい 道で 友だちと 油を売った。 → 道で 友だちと おだ話を して すごした。(かならず入れる言葉：おだ話)
下の れい きのうの けんかは、もう なかった ことに しよう。 → きのうの けんかは、水に流そう。

1 ふつうの 言い方に 書きかえよう

右の「かならず入れる言葉」を 使って 書きます

- (1) 弟の いたずらに、母は 手を焼いて いる。

かならず入れる言葉：こまっ

- (2) あの 人は 口が軽い ので、ひみつの 話は できない。

かならず入れる言葉：しゃべって

- (3) いつも ちらかして いると 言われて、耳が痛い。

かならず入れる言葉：つらい

- (4) 兄は マンガに 目がない。

かならず入れる言葉：大すき

- (5) 引っこしの とき、近所の 人が 手を貸して くれた。

かならず入れる言葉：手つだって

2 慣用句を 使って 書きかえよう

下の 箱から えらびます。使わない 言葉も あります

- (6) クラスの みんなが、同じ ことを いっせいに 言った。

- (7) ぼくが 作った 大きな 雪だるまを 見て、弟は とても おどろいた。

- (8) 先生の 話を、みんなは しんけんに 聞いた。

- (9) なくした 消しゴムを、見のがさない ように 一生けんめい さがした。

- (10) そうじの 時間に、ぼくは めんどくで いいかげんに やって しまった。

ことばの 箱

目が高い

口をそろえる

手を抜く

耳にタコができる

目を皿にする

口が堅い

耳を傾ける

目を丸くする



言いかえてみよう！慣用句プリント②

むね はら かんようく
胸・腹・気のことは 慣用句 ↔ ふつうの 言い方

なまえ _____

ひづけ _____

1 慣用句の意味を、ふつうの言い方で書こう

字をそのまま読んだ意味ではありません

(1) テストで 百点を とった 兄は、胸を張って 家に 帰って きた。

(2) 弟が おもちゃを こわしたので、姉は 腹を立てた。

(3) あしたの 歯医者 の ことを 考えると、気が重い。

(4) ゴールを 決めた 仲間を 見て、胸が熱くなった。

(5) 祖父は 気が短くて、待つのが きらいだ。

2 下の箱の慣用句で書きかえよう

使わない言葉もあります

(6) あしたの 運動会が 楽しみで、わくわくして ねむれない。

(7) しっばいしても いいから、さいごまで やりぬこうと 決心した。

(8) あの 子とは 考え方や 好み が 同じで、すぐに なかよくなった。

(9) 友だちと、かくしごとを せずに 思っている ことを ありのまま 話した。

(10) つりが 好きな 父は、魚が かかるまで 何時間も じっと 待てる。

ことばの箱

ゆる
気を許す

はら
腹を決める

むね
胸がはずむ

気が合う

むね
胸を借りる

はら わ
腹を割って話す

はら
腹黒い

気が長い



言いかえてみよう！慣用句プリント③

足・首・^{かた}肩・^{こし}腰の ことば ふつうの 言い方 ↔ ^{かんようく}慣用句

なまえ _____

ひづけ _____

上の れい この くらいの そうじは 朝飯前だ。 → この くらいの そうじは とても かんたんだ。

下の れい 弟は サッカーが 上手に なる ために、毎日 がんばって いる。 → 弟は サッカーの ^{うで}腕を ^{みが}磨いて いる。

1 ^{かん}慣用句を、^くふつうの 言い方に 書きかえよう

れいの ように 書きかえます

(1) ぼくの ミスで、チームの 足を引っ張って しまった。

(2) けんかを した とき、先生は 妹の 肩を持った。

(3) なぞなぞの 答えを 聞いて、みんな 首をかしげた。

(4) あの 店の 人は 腰が低くて、感じが いい。

(5) 山道を 歩いて、足が棒になった。

2 足・首・^{かた}肩・^{こし}腰の どれかが 入る ^{かん}慣用句を 思い出して 書こう

箱は ありません

(6) ひさしぶりの 友だちからの 手紙を、今か今かと 待っ ている。

(7) 大きな ヘビが 出 きて、わたしは びっくりして すわりこんで しまった。

(8) さいごの 試合に まけて、チームの みんなは がっかりして 元気を なくした。

(9) 自由研究を 出し終えて、やる ことが なくなり、ほっ と した。

(10) お花を 買う ために、わざわざ 遠くの 店まで 出かけた。



言いかえてみよう！慣用句プリント④

ものがたりの 中の 慣用句を見つめよう

なまえ _____
ひづけ _____

1 ものがたりの 慣用句を見つけて、ふつうの 言い方に 書こう

慣用句は 1つの 文に 1つずつ あります

れい みんなが 楽しく あそんで いる のに、兄が 水を差した。

→ 慣用句：水を差した ふつうの 言い方：じゃまを した

- (1) 文化祭の 前の 日、ぼくたちの クラスは いそがしくて、猫の手も借りたい ほどだった。
- (2) ポスターがかりの 田中さんは、夜おそくまで 骨を折って、大きな 絵を かきあげた。
- (3) できあがった 絵を 見て、みんなは 舌を巻いた。
- (4) 先生も、田中さんの がんばりには 頭が下がる と 言った。
- (5) 同じ 組の ぼくは、クラスの 作品が ほめられて 鼻が高かった。

- | | | |
|-----|----------------|------------------|
| (1) | 見つけた 慣用句 _____ | → ふつうの 言い方 _____ |
| (2) | 見つけた 慣用句 _____ | → ふつうの 言い方 _____ |
| (3) | 見つけた 慣用句 _____ | → ふつうの 言い方 _____ |
| (4) | 見つけた 慣用句 _____ | → ふつうの 言い方 _____ |
| (5) | 見つけた 慣用句 _____ | → ふつうの 言い方 _____ |

2 下線の 言い方を、下の 箱の 慣用句で 書きかえよう

使わない 言葉も あります

- (6) 出発の 前の 日、母は わすれものを しないよう、何度も 同じ ことを 注意して くれた。
- (7) 当日の 朝、ぼくは 雨が ふらないか しんぱいして おちつかなかった。
- (8) バス の 中で、先生は 迷子が 出ないよう よく 見はって いた。
- (9) 山道で ころびそうに なり、ぼくは ひやっと した。
- (10) 帰りの バスで ふざけて いた 兄は、先生に 言われて 気持ちを しずめた。

- | | |
|------|-----------|
| (6) | 慣用句 _____ |
| (7) | 慣用句 _____ |
| (8) | 慣用句 _____ |
| (9) | 慣用句 _____ |
| (10) | 慣用句 _____ |

ことばの 箱

肝を冷やす

気を抜く

目を光らせる

頭を冷やす

口を酸っぱくする

顔を出す

気をもむ



言いかえてみよう！慣用句プリント⑤

自分で書いた文を慣用句で書きなおそう

なまえ _____

ひづけ _____

1 慣用句を、ふつうの言い方に書きかえよう

ヒントの言葉は ありません

(1) ぼくの父は 顔が広い。

(2) 弟は兄の注意に 耳を貸さない。

(3) 生まれたばかりの妹は 手がかかる。

(4) 先生は 新入生に 目をかけて いる。

(5) かぜを ひいた 母に、父は 気を配って いる。

2 自分の文を、慣用句で書きなおそう

- ① あ・い・う の おだいで、箱の ことばの 意味に 合う ことを、慣用句を 使わないで ①に 書く（短い 文で よい）
 - ② ①と 同じ 意味に なる ように、箱の 慣用句を 使って ②に 書きなおす
 - ③ ②が できたら、見なおして □に 印を つける
- れい ① お客様の 前で、おとなしい ふりを した。 → ② お客様の 前で、猫をかぶった。

あ 学校で あった ことを 書こう

① _____

② _____

見なおし □ ①と 同じ 意味 □ 箱の 慣用句を 使った □ 字の とおりの 意味じゃない

い 友だちと あそんだ ことを 書こう

① _____

② _____

見なおし □ ①と 同じ 意味 □ 箱の 慣用句を 使った □ 字の とおりの 意味じゃない

う 家の 手つだいを した ことを 書こう

① _____

② _____

見なおし □ ①と 同じ 意味 □ 箱の 慣用句を 使った □ 字の とおりの 意味じゃない

ことばの 箱（意味つき）

骨が折れる＝たいへんで 苦労する

頭を抱える＝どう すれば よいか わからず こまる

鳥肌が立つ＝感動して ぞくっと する

手を尽くす＝できる かぎりの ことを する

顔から火が出る＝はずかしくて 顔が まっかになる

腕が鳴る＝自分の 力を 見せたくて うずうずする

心を打つ＝感動させて 心に のこる

気が引ける＝もうしわけなくて 気おくれする



言いかえてみよう！慣用句プリント①【こたえ】

手・口・目・耳の ことば ふつうの 言い方 ↔ 慣用句

なまえ _____
ひづけ _____

上の れい 道で 友だちと 油を売った。 → 道で 友だちと おだ話を して すごした。（かならず入れる言葉：おだ話）
下の れい きのうの けんかは、もう なかった ことに しよう。 → きのうの けんかは、水に流そう。

1 ふつうの 言い方に 書きかえよう

右の「かならず入れる言葉」を 使って 書きます

- (1) 弟の いたずらに、母は 手を焼いて いる。

かならず入れる言葉：こまって

弟の いたずらに、母は **あつかいに こまって** いる。

意味：あつかい方が わからず こまる ×れい：手が 熱く なった

- (2) あの 人は 口が軽い ので、ひみつの 話は できない。

かならず入れる言葉：しゃべって

あの 人は **すぐに しゃべって しまう ので、ひみつの 話は できない。**

意味：ひみつを 守れず、何でも しゃべる ×れい：口のおもさが 軽い

- (3) いつも ちらかして いると 言われて、耳が痛い。

かならず入れる言葉：つらい

いつも ちらかして いると 言われて、**聞くのが つらい。**

意味：自分の わるい ところを 言われて つらい ×れい：耳が いたく なった

- (4) 兄は マンガに 目がない。

かならず入れる言葉：大すき

兄は **マンガが 大すきだ。**

意味：むちゅうに なる ほど 大すき ×れい：目が なく なった

- (5) 引っこしの とき、近所の 人が 手を貸して くれた。

かならず入れる言葉：手つだって

引っこしの とき、近所の 人が **手つだって くれた。**

意味：仕事を 手つだう ×れい：手を かし出した

2 慣用句を 使って 書きかえよう

下の 箱から えらびます。使わない 言葉も あります

- (6) クラスの みんなが、同じ ことを いっせいに 言った。

クラスの みんなが **口をそろえて 言った。**

大ぜいが みんな 同じ ことを 言う

- (7) ぼくが 作った 大きな 雪だるまを 見て、弟は とても おどろいた。

ぼくが 作った 大きな 雪だるまを 見て、弟は **目を丸くした。**

おどろいて 目を 大きく ひらく

- (8) 先生の 話を、みんなは しんけんに 聞いた。

先生の 話に、みんなは **耳を傾けた。**

相手の 話を しんけんに 聞く

- (9) なくした 消しゴムを、見のがさない ように 一生けんめい さがした。

なくした 消しゴムを、**目を皿にして さがした。**

目を 大きく ひらいて 熱心に 見る

- (10) そうじの 時間に、ぼくは めんどうで いいかげんに やって しまった。

そうじの 時間に、ぼくは **手を抜いて しまった。**

やる べき ことを いいかげんに する

○の つけ方

こたえは 一れいです。たとえば「手を焼く」を「手が 熱く なった」と 書いて いたら もう 一度。

☐ かならず入れる言葉が 入っている ☐ もとの 文と 同じ 意味 ☐ 字の とおりの 意味じゃない

言いかえてみよう！慣用句プリント②【こたえ】

胸・腹・気のことは 慣用句 ←→ ふつうの 言い方

なまえ _____
ひづけ _____

1 慣用句の意味を、ふつうの言い方で書こう

字をそのまま読んだ意味ではありません

- (1) テストで 百点を とった 兄は、胸を張って 家に 帰って きた。

テストで 百点を とった 兄は、**自信を もって 家に 帰って きた。**

意味：自信が あって 堂々 と する ×れい：胸を ひろげた

- (2) 弟が おもちゃを こわしたので、姉は 腹を立てた。

弟が おもちゃを こわしたので、姉は **おこった**。

意味：おこる ×れい：おなかを 立たせた

- (3) あしたの 歯医者 の ことを 考えると、気が重い。

あしたの 歯医者 の ことを 考えると、**ゆううつだ**。

意味：ゆううつで 気が 進まない ×れい：気のおもさが 重い

- (4) ゴールを 決めた 仲間を 見て、胸が熱くなった。

ゴールを 決めた 仲間を 見て、**感動した**。

意味：感動して 心が 熱く なる ×れい：胸の 中が 熱で あつく なった

- (5) 祖父は 気が短くて、待つのが きらいだ。

祖父は **すぐに いらいらして、待つのが きらいだ**。

意味：すぐに いらいらする ×れい：気の ながさが みじかい

2 下の 箱の 慣用句で 書きかえよう

使わない 言葉も あります

- (6) あしたの 運動会が 楽しみで、わくわくして ねむれない。

あしたの 運動会が 楽しみで、**胸がはずんで ねむれない**。

うれしくて 心が わくわくする

- (7) しっばいしても いいから、さいごまで やりぬこうと 決心した。

しっばいしても いいから、さいごまで やりぬこうと **腹を決めた**。

まよいを すてて 決心する

- (8) あの 子とは 考え方や 好み が 同じで、すぐに なかよくなった。

あの 子とは **気が合って、すぐに なかよくなった**。

考え方や 好み が 同じで なかよくなれる

- (9) 友だちと、かくしごとを せずに 思っている ことを ありのまま 話した。

友だちと、**腹を割って 話した**。

かくしごとを せず 本心を 話す

- (10) つりが 好きな 父は、魚が かかるまで 何時間も じっと 待てる。

つりが 好きな 父は、**気が長い**。

のんびり していて、長く 待てる

○の つけ方

こたえは 一れい です。たとえば「胸を張る」を「胸を ひろげた」と 書いて いたら もう 一度。

☐ 上は 意味が 合っている ☐ 下は 箱の 慣用句を 使っている ☐ 字の とおりの 意味じゃない

言いかえてみよう！慣用句プリント③【こたえ】

足・首・^{かた}肩・^{こし}腰の ことば ふつうの 言い方 ↔ ^{かんようく}慣用句

なまえ _____
ひづけ _____

上の れい この くらいの そうじは 朝飯前だ。 → この くらいの そうじは とても かんたんだ。

下の れい 弟は サッカーが 上手に なる ために、毎日 がんばって いる。 → 弟は サッカーの ^{うで}腕を ^{みが}磨いて いる。

1 ^{かん}慣用句を、^くふつうの 言い方に 書きかえよう

れいの ように 書きかえます

- (1) ぼくの ミスで、チームの 足を引っ張って しまった。

ぼくの ミスで、チームの じゃまを して しまった。

意味：仲間の じゃまを する ×れい：足を 手で 引いた

- (2) けんかを した とき、先生は 妹の 肩を持った。

けんかを した とき、先生は 妹の 味方を した。

意味：味方を して かばう ×れい：妹の ^{かた}肩を 手で 持った

- (3) なぞなぞの 答えを 聞いて、みんな 首をかしげた。

なぞなぞの 答えを 聞いて、みんな ぎもんに 思った。

意味：ぎもんに 思う、なっとくできない ×れい：首を ななめに した

- (4) あの お店の 人は 腰が低くて、感じが いい。

あの お店の 人は ていねいで、感じが いい。

意味：ていねいで えらそうに しない ×れい：せが ひくい

- (5) 山道を 歩いて、足が棒になった。

山道を 歩きすぎて、とても つかれた。

意味：歩きすぎて つかれる ×れい：足が ^{ぼう}木の 棒に なった

2 足・首・^{かた}肩・^{こし}腰の どれかが 入る ^{かん}慣用句を 思い出して 書こう

箱は ありません

- (6) ひさしぶりの 友だちからの 手紙を、今か今かと 待って いる。

ひさしぶりの 友だちからの 手紙を、首を長くして 待って いる。

今か今かと 待ちわびる

- (7) 大きな ヘビが 出て きて、わたしは びっくりして すわりこんで しまった。

大きな ヘビが 出て きて、わたしは ^{こし}腰を ^ぬ抜かした。

おどろいて 立てなく なる

- (8) さいごの 試合に まけて、チームの みんなは がっかりして 元気を なくした。

さいごの 試合に まけて、チームの みんなは ^{かた}肩を 落とした。

がっかりして 元気を なくす

- (9) 自由研究を 出し終えて、やる ことが なくなり、ほっと した。

自由研究を 出し終えて、^{かた}肩の 荷が 下りた。

せきにんが なくなって ほっと する

- (10) お花を 買う ために、わざわざ 遠くの 店まで 出かけた。

お花を 買う ために、遠くの 店まで 足を運んだ。

わざわざ その 場所へ 出かける

○の つけ方

こたえは 一れいです。たとえば「足を引っ張る」を「足を 手で 引いた」と 書いて いたら もう 一度。

☐ 上は 意味が 合っている ☐ 下は 同じ 意味なら ほかの ^{かん}慣用句でも ☐ 字の とおりの 意味じゃない

言いかえてみよう！慣用句プリント④【こたえ】

ものがたりの 中の 慣用句を見つめよう

なまえ _____
ひづけ _____

1 ものがたりの 慣用句を見つけて、ふつうの 言い方に 書こう

慣用句は 1つの 文に 1つずつ あります

れい みんなが 楽しく あそんで いる のに、兄が 水を差した。

→ 慣用句：水を差した ふつうの 言い方：じゃまを した

- (1) 文化祭の 前の 日、ぼくたちの クラスは いそがしくて、猫の手も借りたい ほどだった。
- (2) ポスターがかりの 田中さんは、夜おそくまで 骨を折って、大きな 絵を かきあげた。
- (3) できあがった 絵を 見て、みんなは 舌を巻いた。
- (4) 先生も、田中さんの がんばりには 頭が下がる と 言った。
- (5) 同じ 組の ぼくは、クラスの 作品が ほめられて 鼻が高かった。

- | | | |
|-----|--------------------------|-------------------------------|
| (1) | 見つけた 慣用句 猫の手も借りたい | → ふつうの 言い方 とても いそがしい |
| (2) | 見つけた 慣用句 骨を折って | → ふつうの 言い方 一生けんめい 努力する |
| (3) | 見つけた 慣用句 舌を巻いた | → ふつうの 言い方 すごさに 感心する |
| (4) | 見つけた 慣用句 頭が下がる | → ふつうの 言い方 そんけいする |
| (5) | 見つけた 慣用句 鼻が高かった | → ふつうの 言い方 ほこらしく 思う |

2 下線の 言い方を、下の 箱の 慣用句で 書きかえよう

使わない 言葉も あります

- (6) 出発の 前の 日、母は わすれものを しないよう、何度も 同じ ことを 注意して くれた。
- (7) 当日の 朝、ぼくは 雨が ふらないか しんぱいして おちつかなかった。
- (8) バスの 中で、先生は 迷子が 出ないよう よく 見はって いた。
- (9) 山道で ころびそうに なり、ぼくは ひやっと した。
- (10) 帰りの バスで ふざけて いた 兄は、先生に 言われて 気持ちを しずめた。

- | | | |
|------|----------------------|-------------------|
| (6) | 慣用句 口を酸っぱくして | 同じ ことを 何度も 注意する |
| (7) | 慣用句 気をもんだ | しんぱいして おちつかない |
| (8) | 慣用句 目を光らせて いた | しっかり 見はる |
| (9) | 慣用句 肝を冷やした | きけんを 感じて ひやりと する |
| (10) | 慣用句 頭を冷やした | こうふんを しずめて 冷静に なる |

○の つけ方

こたえは 一れいです。慣用句を 見つけて、同じ 意味の ふつうの 言い方が 書けて いれば ○。

☐ 見つけた 慣用句が 合っている ☐ ふつうの 言い方の 意味が 合っている ☐ 下は 箱の 慣用句で 書けた

言いかえてみよう！慣用句プリント⑤【こたえ】

自分で書いた文を慣用句で書きなおそう

なまえ _____

ひづけ _____

1 慣用句を、ふつうの言い方に書きかえよう

ヒントの言葉は ありません

(1) ぼくの父は 顔が広い。

ぼくの父は 知り合いが多い。

多くの人と知り合いだ

(2) 弟は兄の注意に 耳を貸さない。

弟は兄の注意を聞き入れない。

人の意見をしっかり聞く

(3) 生まれたばかりの妹は 手がかかる。

生まれたばかりの妹は世話に時間がかかる。

世話に手間や時間がかかる

(4) 先生は 新入生に 目をかけて いる。

先生は新入生を気にかけてかわいがっている。

気にかけてかわいがる

(5) かぜをひいた母に、父は 気を配って いる。

かぜをひいた母に、父はこまかいところまで注意している。

こまかいところまで注意する

2 自分の文を、慣用句で書きなおそう

① あ・い・うのおだいで、箱のことはの意味に合うことを、慣用句を使わないで①に書く（短い文でよい）

② ①と同じ意味になるように、箱の慣用句を使って②に書きなおす

③ ②ができたなら、見なおして□に印をつける

れい ① お客さんの前で、おとなしいふりをした。 → ② お客さんの前で、猫をかぶった。

あ 学校で あった ことを 書こう

① きょう、しゅくだいを わすれて、とても はずかしかった。

② きょう、しゅくだいを わすれて、顔から火が出た。

顔から火が出る＝はずかしくて 顔が まっかになる

見なおし □ ①と同じ意味 □ 箱の慣用句を使った □ 字のと通りの意味じゃない

い 友だちと あそんだ ことを 書こう

① かくれんぼで 友だちが 見つからず、とても こまった。

② かくれんぼで 友だちが 見つからず、頭を抱えた。

頭を抱える＝どうすればよいか わからず こまる

見なおし □ ①と同じ意味 □ 箱の慣用句を使った □ 字のと通りの意味じゃない

う 家の 手つだいを した ことを 書こう

① タゴはんの あとかたづけは、とても たいへんだった。

② タゴはんの あとかたづけは、骨が折れた。

骨が折れる＝たいへんで 苦勞する

見なおし □ ①と同じ意味 □ 箱の慣用句を使った □ 字のと通りの意味じゃない

○のつけ方

①②は 一れいです。①は ふつうの 言い方、②は 箱の慣用句で ①と同じ 意味に なって いれば ○。

□ ①と同じ 意味に なっている □ 箱の慣用句を 使っている □ 字のと通りの 意味じゃない